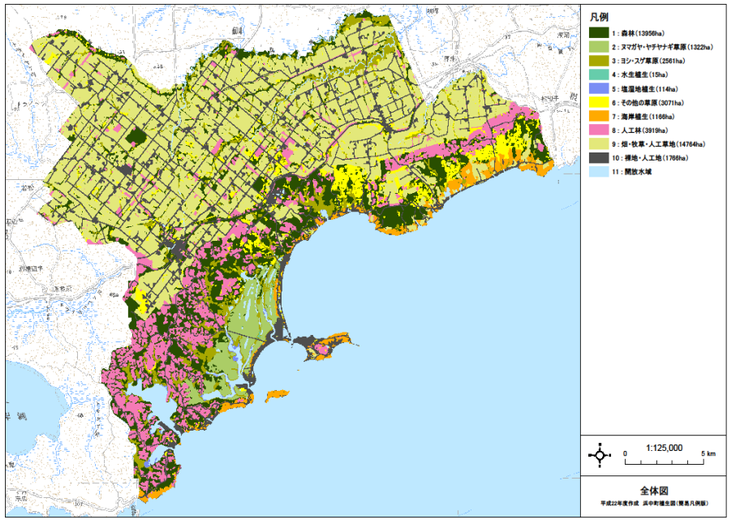
風蓮川水系環境情報データベースの整備について

あなたは、行ったことのない場所へ行きたいと思った時、どのような行動を取りますか？　「行き方を知っている人に聞く」「地図で探す」「ネットで調べる」など、幾つかの方法で情報を得てから行動することと思います。同じ行き方でも情報が多ければ楽に行けたり、速くついたり、楽しかったりします。情報が多いということは、「行く」という行為に安全性、スピード、楽しみなどの付加価値をつけてくれることを意味します。

目標までの地図、そして情報が重要です。種々の断片的な情報がつながると、相互の関係が明らかになり、過去・現在・未来が見えて来ます。目的地へのルートは複数あります。それを選択するために情報量の豊富な地図が必要なのです。なぜそのルートを選んだか明確であれば、迷ったり、間違っても、戻ったり、改善することができます。

ＮＰＯ法人えんの森が浜中町と協働で進めている「風蓮川水系環境情報データベース（ＤＢ）」の作成作業は、まさしく私たちが目指す「持続可能な住みたい・住み続けたい地域づくり」を進めるうえでの「道しるべ」をつくることです。ＤＢは地理情報システム（GIS）というソフトを用いて、土地の利用のされ方、植生、動物の分布など地図上にいろいろな情報を表示します。たとえば植林などの環境保全活動をどこでどんなふうに行うかを決めるための選択肢を示し、その結果を検証する重要な役割を担います。

風蓮川の上流域である浜中町の行政区域内では、認定ＮＰＯ法人霧多布湿原ナショナルトラスト、浜中町農業協同組合など多数の方の協力でこのＤＢを利用できるまでになりました。中・下流域のデータとつながれば利用価値が高まります。えんの森は流域全体での完成を目指し、浜中町やえんの森をはじめ、さまざまな団体の活動に役立てることができるように整えていく方針です。



事務局長・河原淳

風蓮川水系環境情報データベースを活用して作った浜中町の植生図。どこにどんな植物が生え、その土地がどのように利用されているのかが一目瞭然です。土砂が川に流れ込むのを防ぐ役割を果たす河畔林を再生するために植林を重点的に行うエリアを見定めたり、地域の環境復元がどこまで進んだか検証したりする際に有効活用できる「優れモノ」です。

風蓮川流域の環境調査を計画しています

えんの森では本年度から、浜中町内の風蓮川流域を①三郎川・丸佐川②ノコベリベツ川本流・オラウンベツ川③姉別川水系の３エリアに分けて、魚類・植物・哺乳類・鳥類などの生き物と堰堤など河川の構造物を調べる計画です。自然環境への負荷を減らしながら酪農の生産活動を続けていくために、風蓮川流域の自然環境を把握して保全計画を立て、可能なところから保全策を実施に移す方針です。楽しみながらの踏査・調査は、身近な自然環境を知る第一歩。会員の皆様、地域の皆様、ぜひ協力をお願い致します。

フォトエッセー　まきばを渡る風

Ｖｏｌ．１「風を感じて」　菅井喜久雄

2010年はまなか故郷えん協議会のフォトコンテストに出品した写真のひとつが「風を感じて」。今回の写真は同時期に撮影した別ものです。酪農も規模が大きくなり、150馬力を超える巨大なトラクターが凄いスピードで走り回るのが普通になりました。我が家のは最大で85馬力、キャビン付きもありません。「風を感じて」と付けたのは、まあ、負け惜しみ、強がりなのですが、そういうものに対する「？」であったのかもしれません。

農家に生まれ育ったわけでもないし、学校でちゃんと学んだわけでもないので、頬に風を受け、足の裏に土や草を感じながら、自分の身の丈にあった酪農しか出来ませんし、それでいいと思っています。そんな私に浜中の魅力を紹介しろという。普段の写真は我が家の牧場内で撮ったものがほとんどです。好きでここに住み、好きで酪農をしているのだから、自分の好きなものが浜中の魅力と無理矢理こじつけて、しばしの間お付き合い下さい。　（えんの森会員・運営委員）

すがい・きくお　通称くまさん。1956年東京赤羽生まれ。小さい時から生きもの大好き。カメラは小学５年頃から。高校時代は生物学へ進むつもりが、ＳＬに惹かれて来道したのが運の尽き。北海道！そうだ酪農だ！と20歳の時に浜中町西円朱別に酪農実習生として来て以来、西円の魔物に取り憑かれて逃げられなくなっている。自身のブログ「牛舎の窓から」で時々お尻を見せながら酪農をしている変な人。

NEWS!

旧浜中町立西円朱別小学校の校舎を、えんの森の事務所として借りることになりました。入居は６月の予定です。　＜住所＞北海道厚岸郡浜中町西円朱別西18線181番地

浜中の生き物たち　河原　淳

哺乳類編　トウキョウトガリネズミ①

浜中町に生息する生き物について紹介するこのシリーズ。まずは哺乳類編で、浜中町で確認されている哺乳類約40種類を体の大きさ順に紹介します。最後の最も大きな哺乳類は、いったい何？　お楽しみに。

最も体の大きさが小さいのはチビトガリネズミ（亜種名トウキョウトガリネズミ）です。モグラの仲間で食虫目（モグラ目）トガリネズミ科。体重約２ｇ、体長約8cm（頭胴長約5cm＋尾長約3cm）で、世界でも最も小さい哺乳類の一つです。これに対抗するのはキティブタバナコウモリ、体重約２ｇ、体長約4cm（頭胴長約4cm＋尾なし）、翼開長15～17cmという大きさです。体長だと尾のないキティブタバナコウモリが小さいけれど、翼を広げるとチビトガリネズミはすっぽり入ってしまいます。甲乙つけがたいので、世界最小級と称して1位・2位の座を分け合っています。

チビトガリネズミはユーラシア大陸北部一帯および朝鮮半島の一部、国後、択捉島に広く分布していますが、国内では北海道だけ。世界的にも希にしか捕獲出来ない種です。キティブタバナコウモリはタイの一部の地域でしか確認されていませんから、希少性でも甲乙つけがたい状況です。浜中町は現時点で、国内でチビトガリネズミの生息地が最も多く確認され、捕獲個体数が最も多いところです。　（えんの森事務局長）

新連載「えんな人びと」その１　垣内　勇人さん

ＮＰＯ法人えんの森には、熱い心とユーモアあふれるユニークな人々が集っています。このコーナーでは、いずれ劣らぬ個性の持ち主であるえんの森の役職員やサポーターの方々の横顔を紹介します。トップバッターは副理事長の垣内勇人（かきうち・はやと）さん（51）です。

「子どものころと比べると、西円はずいぶん変わったよな」と素敵（不敵？）な笑顔で語る垣内さんは、浜中町西円朱別地区の酪農家の3代目。地域の環境と酪農業の変化をその目で見てきました。子どものころ家では鎌で牧草を刈って「にお積み」し、馬で運搬。子どもも当然のように作業を手伝い、遊びと言えば地元の三郎川でのヤマベ釣り。地域にはナラの大木などの天然林も残り、道路も未舗装で真っすぐではありませんでした。

地域の魅力再発見へ、思い熱い「アニキ」

やがて森が切られて牧草地が広がり、道路は舗装され真っすぐに。家では、牧草を刈って重さ20ｋｇほどの立方体にする「コンパクトベーラー」などの機械を導入。「中学時代まで、ベーラーでまとめた牧草をフォークで刺して納屋に積み上げるのが仕事だったんだよね」

そうして鍛えた腕っ節に、いかつい先輩も多かった江別市の酪農学園機農高校（現とわの森三愛高校）で磨きをかけ、酪農学園大短大部を卒業して家業を継いだ垣内さん。現在は搾乳牛120頭を飼い、子牛の育成はせずに搾乳に力を注ぐ独特の経営スタイルです。

地域では、若い酪農家の「よきアニキ」。2009年に西円朱別地区で行われた地域の魅力再発見イベント「ロール de ゴー」では、「道外からのお客さんに、酪農に対して抱くイメージを変えてほしい」との思いから、元気な若手酪農家たちにダイナミックな牧草の収穫作業のデモンストレーションを行ってもらうなど、裏方として駆けまわりました。

目下の懸案は、児童減少から今春で閉校した西円朱別小学校の旧校舎の活用。自身も、2人の子どもも通った思い出深い校舎です。「地域の人たちに利用してもらえる仕組みをつくりたい」と意欲満々です。

あなたの力を貸してください。

NPO法人えんの森の活動は、会員の皆様の力で支えられています。2012年4月10日現在、正会員（社員）２５人、サポーター会員８２人、団体会員１０団体。ご支援に心から感謝します。

■サポーター会員　年会費2,000円　■団体会員　年会費1口10,000円（1口以上）

■会費・寄付の口座

○　大地みらい信用金庫　浜中支店　普通１０３５５３１特定非営利活動法人えんの森　理事長　二瓶　昭

○　JAバンク　浜中町農業協同組合本所　普通００１４７２８　NPO法人えんの森　理事長　二瓶　昭

○　郵便振替口座　02760-2-80105　　NPO法人えんの森

★団体会員：(株)野生生物総合研究所、浜中町農業協同組合、(株)丸夕村田商店、北海道オリオン(株)浜中営業所、三光産業株式会社、株式会社興和工業、日本全薬工業、蝦夷三官寺學研究所、飛鳥苑、日本配合飼料(株)、(有)浜中町就職者研修牧場本場（敬称略）

ＮＰＯ法人えんの森ニューズレター「えんの森通信」第2号（2012年4月発行）
En no mori News Letter　No.2 Ａｐｒｉｌ 2012

■発　行■　　特定非営利活動法人　えんの森
■編　集■　　中川　大介

■特定非営利活動法人えんの森事務局
北海道厚岸郡浜中町茶内西15線111番地　二瓶牧場内
電話・ファクス：0153・65・2869　　電子メール：enmori@least-shrew.jp

第2号　　発行日：2012年４月20日

NPO法人えんの森

えんの森通信

En no mori News Letter No.2 April 2012

設立記念講演会を開催

ＮＰＯ法人えんの森は2011年11月19日、設立を記念する講演会を、本拠地である北海道浜中町の西円朱別会館で開きました。同年9月に設立したえんの森の活動を広く知ってもらう場を設けるのは初めてのことです。

役員を紹介する二瓶理事長（左）

会場には浜中町だけでなく、隣の別海町や厚岸町、さらには標津町、釧路市など釧路・根室地域一帯から酪農家、行政関係者、農業関連企業の社員、環境に関心のある市民など45人が来場されました。挨拶に立った二瓶昭理事長は役職員を紹介し、「浜中、別海両町を流れる風蓮川水域の環境保全に取り組み、自然と調和した酪農郷を築くことが、『えんの森』の目的です。そうして生き物の豊かな環境を取り戻すことが、この地で生産される生乳の『安全・安心の証』になると考えます」と説明。「地域の魅力ある資源を発掘し、楽しいイベントを企画して『住みたい、住み続けたい地域づくり』を進めるという大きな目標を持って活動して行きたい。多くの皆さんの協力をいただき、活動した結果をきちんと検証しながら進めたい」と支援を訴えました。

河原淳・えんの森事務局長

続いて、えんの森の河原淳事務局長が風蓮川流域の自然環境データベースの整備、小学校跡地を拠点とした地域づくり活動など、えんの森が取り組む事業についてスライドを使って説明しました。

記念講演の講師は、環境に配慮した森づくりや市民と森林を結ぶ活動を進める旭川市のＮＰＯ法人「もりねっと北海道」理事の山本牧さん。「森・川・人をつなぐ―ＮＰＯの試み」と題し、同法人の活動やＮＰＯの役割についてご講演いただきました。

もりねっと北海道の山本牧さん

引き続いて開かれた懇親会には26人が出席。地域の自然環境や酪農をめぐる話などに花を咲かせました。当日は、来場者の中から8人の方にサポーター会員として新規入会いただきました。役職員一同、非常に嬉しく、心強く感じている次第です。まだ芽を出し、少しずつ葉を広げだしたばかりのえんの森ですが、皆さんに支援いただきながら、大きく枝を広げ、葉の茂る木に育っていきたいと願っています。これからもご支援、どうぞよろしくお願い致します。